

## 主要普及成果の紹介

### ホールクroppと飼料用米の両方に使える水稻品種「モグモグあおば」

「モグモグあおば」は、九州に適したホールクroppサイレージ（WCS）、飼料用米の両方に使える飼料用水稻品種で、この地域で急増する飼料稲栽培へのニーズに応える品種です。

#### 【推定 TDN 収量が多収で WCS として利用できます】

「モグモグあおば」は地上部全重収量が多収で、5月植えにおける TDN（可消化養分総量；飼料に含まれる消化可能な養分量）収量は主食用品種「ニシホマレ」より 20%、WCS 用品種「ニシアオバ」より 10% 多収です（図 1）。

#### 【粗玄米重が多収で飼料用米として利用できます】

「モグモグあおば」の粗玄米重は主食用品種「ニシホマレ」と比べ、33%多収を示し、飼料用米として利用可能です（図 2）。これまで大分県や広島県で 900kg ～ 1t/10a の多収事例も得られています。「モグモグあおば」は登熟に時間がかかる特性があるため、移植時期が遅すぎたり、早期落水条件や標高が高い地域など生育期間が確保できない場合には、十分な収量が得られないことがあります。

#### 【九州に適した晩生種です】

出穂期は主食用品種「ニシホマレ」と同程度の晩生熟期で、WCS の刈り取り適期である黄熟期は

10月上旬、飼料用米の刈り取り時期である成熟期は10月中下旬です。背丈は高いのですが茎が太く強いので倒れにくい特徴があります（写真）。

「モグモグあおば」は 2012 年現在、九州を中心に約 400ha の水田で栽培されており、その普及により国産飼料の増産に貢献することが期待されています。栽培上の注意点や種子の入手先については農研機構のウェブページをご覧ください。

「モグモグあおば」のウェブページ（農研機構）

<http://www.naro.affrc.go.jp/patent/breed/0100/0107/001490/index.html>

【水田作・園芸研究領域 田村 泰章】



図3 「モグモグあおば」の草姿

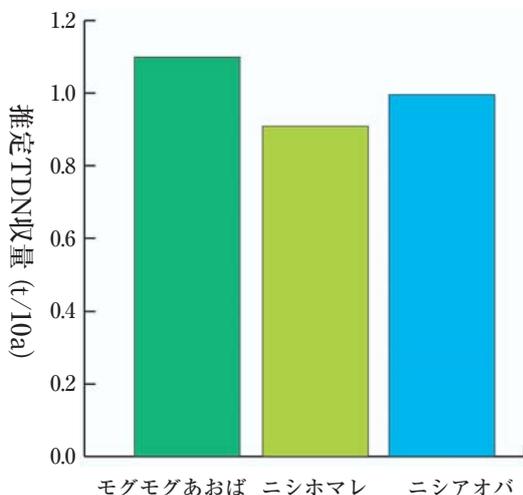


図1 早植栽培における推定 TDN 収量の比較（2004-08年）

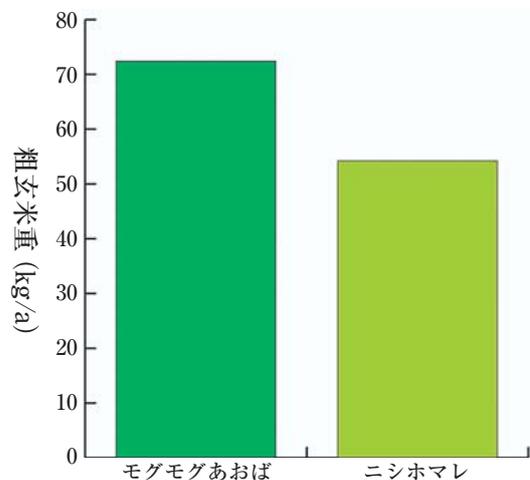


図2 「モグモグあおば」と「ニシホマレ」の粗玄米重の比較（6月植え、2007-08年）